

令和8年度 武蔵野市立千川小学校 学校経営計画書

武蔵野市立千川小学校
校長 鈴木 恒雄

《学校運営方針》

学校は、かけがえのない命を預かり、今後の社会を担う「知・徳・体」の調和のとれた児童の育成を目指した教育を行うところである。法や条例に基づき、社会の様々な課題や教育に対する期待等を見据え、児童や家庭・地域社会の実態に即して主体的に教育活動を創造していくことが重要である。

小学校学習指導要領では、予測困難な時代を生きる子どもたちに必要な「生きる力」を育むために、教育課程全体を通して、生きて働く知識及び技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性等の涵養を目指している。さらに文部科学省は「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトとして第4期教育振興計画を示した。また、東京都教育委員会は、東京都教育ビジョン（第5次）を策定し、東京の目指す教育を「誰一人残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育」とした。そして、武蔵野市では、第四期武蔵野市学校教育計画（令和7年度～11年度）が策定され、「自他の幸せと豊かな社会を実現する未来の創り手を育む」を教育理念とし、3つの方針と6つの施策、31の取組が昨年4月から施行されることとなった。

このような教育施策や社会的な背景から、本校では4つの教育目標

○よく考える子ども ◎仲良く助け合う子ども ○明るく元気な子ども ○すすんで働く子ども

のうち「仲良く助け合う子ども」を今年度も重点目標とし、多様な他者との関わりを通して、互いのよさや多様性を認め合うことのできる豊かな心と、誰とでも仲良く協力し合うことのできる協調性や社会性を育てていくこととする。日々の授業でも、様々な学校行事等でも、常に子ども同士が「対話」して理解し合い、納得解・最適解を求めていけるようにすること、仲間と「協働」してよりよいものを創り出していけるようにすることを目指して、教育活動を展開していく。加えて本校は令和8年度・9年度 武蔵野市教育委員会教育課題研究開発校の指定を受けることとなった。本校が取り組む教育課題は「子どもの主体的な社会参画に関する教育の推進」である。これまで本校が力を入れて取り組んできた特別活動は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をその目標に迫る視点とし、子どもの主体的な社会参画の基礎となる資質・能力を育む教育活動である。今後2年間、特別活動を中心に研究に取り組み、その成果を発信していく。

武蔵野市立千川小学校を、子どもたちの豊かな心と健康な体を育む学校、よりよいものを求めて高め合う学校、保護者・地域から信頼される学校にしていきたい。そのためには、教職員一人一人が高い志を持ち、自己の責任を果たすとともに、一つのチームとなって協働していくことが肝要である。そこで、以下に学校経営計画を示す。

1 目指す学校

○豊かな心と健やかな体を育む学校

- ・ 基本的な生活習慣を身に付け、すすんで心と体を鍛える。
- ・ 自他を価値ある存在として尊重し、相手を思いやる。
- ・ よりよいものに触れ、すすんで自己表現を図る。

○よりよいものを求めて共に高め合う学校

- ・ 「わかった」「できた」「楽しい」「もっとやりたい」を実感でき、一人一人の思いや願いが叶う。
- ・ 仲間と協働してよりよいものを追求する。
- ・ 自分自身や自分が所属する集団の高まりを実感できる。

○地域に根差し信頼される学校

- ・ 一人一人の人権と安全・安心が守られている。
- ・ 児童、保護者、地域の思いや願いを受け止め、調整し、教育活動に生かす。
- ・ 地域の人材、地域の環境や学習材などの地域資源を積極的に活用する。
- ・ 保護者・地域と連携・協働し開かれた学校づくりを推進する。

2 目指す教職員像

○健康で活力のある教職員

- ・ 豊かな心と体力の保持増進に努め、心身ともに健康であろうとする。
- ・ 子どもとも大人とも明朗快活にコミュニケーションし、円滑な人間関係を築く。
- ・ 子どもと関わり、子どもを育てることに「やりがい」を感じられる。

○よりよいものを求めて高め合う教職員

- ・ 思いや願いをもち、目標を明確にして教育活動を展開し、情報発信や説明責任を果たす。
- ・ 職種や職層に応じて課題発見に努め、困難な課題にも粘り強く取り組んで課題解決にあたる。
- ・ よりよいものを求めて創意・工夫し、日々の授業や職務の改善に努める。
- ・ 職員の和を大切にし、常に協働しながらチームワークよく職務を遂行する。

○児童・保護者・地域から信頼される教職員

- ・ 子どもや同僚の人権を大切にし、互いを尊重し合う。
- ・ 児童理解に努めて個々のよさを伸ばし、児童・保護者と成長の喜びや感動を共有する。
- ・ 誠意と感謝をもって対応し、児童・保護者・地域から信頼される教職員であろうとする。
- ・ 教育公務員として、組織の一員としての自覚をもち、サービスの遵守に努める。

3 中期的目標と方策

(1) 豊かな心と健康な体を育む学校づくりのために

①人権尊重教育・道徳教育の推進

- ・ 年間指導計画に基づいて、全教育活動を通じて人権教育を推進し人権意識を高める。
- ・ 「特別の教科 道徳」を中心として道徳教育の充実を図るとともに、様々な人との関わりを通して相手を思いやる気持ちを育てる。

②生活指導の徹底

- ・ 児童が安心して学校生活を送ることができるよう、いじめの未然防止、早期発見・早期対応等、対策を徹底する。

- ・規範意識を高め、望ましい学習環境を確立するとともに地域の健全育成活動とも連携し、基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・年間を通してあいさつのよさが実感できる活動を行う。

③豊かな情操を育む活動の充実

- ・「ふれあいホール」「ラーニングセンター」「学校図書館」など、本校ならではの恵まれた学校施設・設備を積極的に活用しながら、音楽、美術、文芸作品など、児童が芸術に触れたり、創作・表現したりする活動を重視し、学校生活を豊かにするとともに豊かな感性と情操を育む。
- ・自然観察園「わくわく広場」での自然との触れ合いや栽培活動を通じて、自然保護や環境保全への意識を育む。

④健康の保持増進・体力の向上

- ・安全で運動量が確保された体育の授業を充実させるとともに中休みの外遊びを奨励するなど、児童の体力・運動能力の向上と日常的に運動に親しむ態度を育成する。
- ・体育科の保健領域の学習、保健指導及び安全指導を通して、命や体についての理解を深め大切にしようとする態度を育み、自分の体を自己管理できる児童を育てる。
- ・給食指導や家庭科の学習を中心に食育を推進し、食に関する意識を向上させ、食べることを通じて健康な心身を培っていかうとする態度を育む。

⑤合理的配慮に基づいた特別支援教育の充実

- ・教育相談体制の一層の充実を図り、特別な教育的ニーズのある児童の社会的自立に向けた働き掛けと支援を推進する。
- ・特別支援教室「あさがお」の拠点校であるメリットを生かし、巡回指導員をはじめ巡回相談員、専門家スタッフ、都スクールカウンセラー、市派遣相談員やスクールソーシャルワーカー等、専門的な見地からの助言を日々の支援・指導に生かせるよう、連携体制を充実させる。また、家庭と子どもの支援員を活用して、教室に入りづらい児童や不登校傾向のある児童への対応を充実させる。

⑤安全教育・防災教育の推進

- ・日常の安全指導や避難訓練を充実させ、児童が「自分の身は自分で守る」という意識と技能をもつための防災教育を推進し、「他者の安全に貢献する」ための資質と能力を高める。

⑥働き方改革の推進

- ・教職員のライフワークバランスを改善し、健康の保持増進、心身のリフレッシュに心がけ、明るく元気に教育活動に携われるようにする。

(2) よりよいものを求めて高め合う学校づくりのために

①学びの基盤となる資質・能力の育成

- ・学習指導要領に示された資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、毎時間のねらいを明確にし、学習方法や学習形態を工夫した授業を展開する。

②「主体的・対話的で深い学び」の実現

- ・教育活動全体を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善に取り組み、それぞれの教科等の目標である資質・能力を確実に育成する。
- ・オープンスクールの特徴を生かし、学習のねらいに応じた様々な授業形態・学習形態を試みる。

③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- ・児童理解に基づく個に応じた指導の充実を図る。
- ・ICT環境や学習者用コンピュータ、デジタル教材の有効活用を推進する。
- ・多様な他者と協働的に取り組む探求的な学習や体験活動の充実を図る。
- ・最適解・納得解を皆で求めてよりよい学びを生もうとする学習の流れを創り出す工夫をする。

④生活科・総合的な学習の時間・武蔵野市民科を軸とした市民性を高める教育の推進

- ・生活科・総合的な学習の時間・武蔵野市民科の関連性・系統性を考慮し、地域の学習材を生かし地域に根付いた活動を開発し、すすんで社会参画しようとする実践的な態度を育む。
- ・地域の施設等との連携、地域の活動や行事への参加についてよりよい在り方を考え連携を深めていく。

⑤よりよい人間関係を形成する特別活動の充実

- ・様々な集団活動に自主的、実践的に取り組むことを通して、合意形成を図ったり、意思決定したりできるようにするとともに、人間関係をよりよく形成し自己実現を図ろうとする態度を養う。
- ・学校行事への主体的な参加を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う。

⑥教師の指導力向上を図る取組の充実

- ・授業研究を核として、協働的・実践的な校内研究を進める。
- ・校内研修会を随時開催し、OJTを推進する。

(3) 地域に根差し信頼される学校づくりのために

①信頼関係の構築

- ・児童理解に努め、児童個々の課題を把握し、よさを伸ばす。
- ・児童、保護者、地域の思いや願いを受容的に受け止め、常に誠意をもって丁寧に対応する。
- ・教育相談の充実を図り、保護者と学校が課題を共有してよりよい解決を図れるようにする。

②保護者や地域との連携を深め、地域のよさを知り大切にしようとする教育の推進

- ・教職員がすすんで地域と関わりをもち、地域のよさを児童に伝えることができるようにする。そのために、地域コーディネーターの協力を得ながら地域の人材や教材を積極的に活用する。
- ・児童が地域の一員としての自覚をもち、地域に貢献しようとする態度を育てる

③学校・家庭・地域の協働体制の充実

- ・千川小学校ならではの家庭・地域との連携体制のよさや強みを生かすとともに、学校運営協議会の機能をもった「開かれた学校づくり協議会」の内容や開催方法を改善し、学校・家庭・地域の協働体制の充実を図る。

④組織的な学校運営の推進

- ・全教職員が学校運営に参画し、常に改善していく意識をもって組織的に職務を遂行する。
- ・全教職員が危機管理意識をもち、小さな疑問や不安をそのままにすることのないよう報告・連絡・相談を徹底し、初期対応を大切に行動する。

④学校評価の有効活用

- ・学校評価アンケートの内容や方法の改善に努めるとともに、評価結果が教育活動の改善につながるよう、結果の公表と効果的な活用方法を工夫する。

⑤学校だよりや学校ホームページの充実による学校情報の積極的な発信

- ・学校だよりや学校ホームページの内容や構成、情報の発信の仕方を工夫し、教育活動の様子が分かりやすくタイムリーに保護者・地域に伝わるようにする。

4 今年度の重点目標と方策

(1) 学習指導

- ①各教科等の特質に応じて、児童が互いの思いや考えを「やりとり」しながら学びを深めていく対話的な活動を重視した学習過程を工夫して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- ②新たに導入された学習者用コンピュータ及び「ミライ・シード」等のデジタル教材等を積極的に活用しつつ、従来の指導方法や教材の価値を見極めて精選して活用し、「個別最適な学び」の充実を図るとともに、多様な他者との探求的な学習や体験活動を重視した「協働的な学び」を展開する。
- ③3名の地域コーディネーターの協力を得ながら地域教材や地域人材を積極的に活用し、生活科や総合的な学習の時間及び武蔵野市民科の指導計画を改善・開発し、各教科等との関連を整理してカリキュラムマネジメントを推進する。
- ④資料や情報源としての図書を児童が積極的に活用できるよう、学校司書及び市立図書館等と連携しながら「情報センター」「学習センター」としての学校図書館の機能を充実させる。

(2) 生活指導・進路指導

- ①改訂したいじめ防止基本方針に基づき、すべての児童が安心できる学校風土を実現するとともに、いじめ問題の理解といじめの未然防止に努める。また、本校独自の「いじめの早期発見・早期対応の手引き」を活用し、児童の微細な変化やSOSを見逃さないよう常に細心の注意を払う。それらを察知した際には直ちに教員間で情報を共有するとともに管理職に報告・連絡・相談する。
- ②都スクールカウンセラーや市派遣相談員、市スクールソーシャルワーカー他、関係機関と連携するとともに、家庭と子どもの支援員を活用して、対象児童と在籍学級とのつながり、対象児童と保護者とのつながりの維持を工夫しながら、教室に入りづらい児童や不登校傾向のある児童の居場所としての「せんかわプレイス」を充実させ、安心して登校できるようにする。
- ③特別支援校内委員会を通じて特別な配慮を要する児童に関する情報を共有し、その状況や保護者の要望を把握して適切な支援方法や体制を検討する。また、特別支援教室拠点校としてのメリットを生かし、発達障害等に関する専門的な見地からの児童理解や指導方法を共有できるようにする。
- ④キャリアパスポート等を活用して「自分のためにがんばること」「仲間のためにがんばること」「家族や地域のためにがんばること」を目標に行動して振り返り、次のステージに生かせるようにして、個々のキャリア形成とよりよい自己実現を図れるようにする。

(3) 特別活動・その他

- ①武蔵野市教育委員会教育課題研究開発校として、教育課題「子どもの主体的な社会参画に関する教育の推進」について、特別活動を中心とした校内研究に2年計画で取り組む。初年度は社会参画の基礎となる学級活動において、児童が主体的に合意形成を図る力・意思決定する力・自己実現を図る力を育てる授業研究を推進する。更に、学級活動で育んだ力を児童会活動やクラブ活動、学校行事で発揮できるようにし、児童の発意・発想を生かした創造的な取組を充実させ、全ての児童が所属感や連帯感、自己有用感や自己効力感を味わい自尊感情を高めることができるようにする。
- ②実施地を奥多摩に変更したプレセカンドスクール、6泊7日のモデル校指定を受けたセカンドスクール、宿泊行事の集大成となる日光移動教室では、ゆとりある活動プログラムをデザインし、児童が主体的に学びを深められるようにする。

- ③児童が身近なところで音楽や美術にふれたり主体的に創作活動を行ったりできるような環境をつくとともに、図書のと時間及び全校朝読書の時間や読書ウィークス等を活用し、絵本・詩・物語など様々な文芸作品に触れられるようにして学校生活を豊かにし、情操を育む。
- ④運動量を確保するとともに、技能ポイントを明らかにしたスモールステップの指導過程と楽しみながら運動に取り組める学習内容により体育科の授業を充実させ、児童の体力・運動能力の向上を図る。また、中休みの外遊びを励行するとともに、季節に応じた体力向上を図る取組を進め、すすんで健康な体づくりに取り組む児童を育成する。

(4) 学校運営

- ①「開かれた学校づくり協議会」の活動をより積極的に発信し、委員と児童、保護者、教員が交流する機会を設けたり、3名の地域コーディネーターと教員が打ち合わせる機会を定期的に設けたりするなどして学校と地域の関係を一層深め、開かれた学校づくりを推進する。
- ②各分掌担当者のジョブ・ローテーションや分掌内での適切な役割分担と協働体制により、校内OJTを推進するとともに、各自の主体性を生かした学校づくりを進める。また、主任教諭の得意分野を生かした校内ミニ研修を月1回実施して児童理解と指導力の向上を図る。
- ⑤「やりがい支援」「先生生き生きプロジェクト2.0」を推進し、一部教科担任制の推進と校務DXによる業務の効率化、連携・協働を図り、教職員が児童の成長や仲間の笑顔を通して「働きがい」や「働きやすさ」を感じながら業務に向き合えるようにする。
- ④サービス研修を随時行い、サービス遵守への意識の向上を図り、サービス規律の徹底を図る。

以上